

## 新県立体育館の整備に対する提言書

私たち自由民主党香川県政会は、サンポート高松に予定された新県立体育館の整備事業が、財政状況が厳しい本県において、建設工事費が170億円から190億円に及ぶ、後世に残る一大事業であると認識し、これまで、県における対応を見守ってきた。

その基本設計に向けては、私たちも当初は、瀬戸内海を借景とするサンポートにふさわしい、シドニーのオペラハウスのようなデザイン性の高い建物を想像してきた。

しかしながら、全国の先進的なアリーナ等を視察する中で、魅力的なデザイン案が選ばれながら、建設費用が予定されていた費用の2倍以上に膨れ上がった事例や、有名な建築家を選んだものの、費用が予定予算内におさまらなくなつた結果、建設を断念せざるを得なくなった事例や、数回にわたる入札不調により、増額補正を余儀なくされた事例、また、コンペ時に提案された内容が実現できず、魅力のない建築物ができてしまった事例を多数、目の当たりしてきた。さらに、デザインを重視した施設は、外見がシンプルな施設に比べて、修理費用など、後年の維持管理費も負担が大きくなることも判明した。

そのような課題を整理し、自ら勉強会を重ねる中で、多額の未来投資によって新県立体育館を整備する意義は、何十年も継続して人を集めできる施設をつくることで、本県にとっての地方創生を実現することにある。そのためには、デザインではなく、それぞれの利用者が利用しやすいように機能性を高めるとともに、コストパフォーマンスを十分に発揮することを最優先に考えなければならないとの結論に至ったのである。

このような観点から、本県議会としては、昨年6月に「県立体育館整備等に関する特別委員会」を設置し、音楽イベントやアリーナの専門家等からの意見聴取や委員会審査を踏まえ、同委員会の昨年6月の提言書において、外観のデザインなどの芸術性よりも機能性や収益性を重視してアリーナ機能を充実させるなどの8項目を踏まえた設計業者を選定するよう強く求めている。

また、昨年7月の本会議での決議では、建設工事費が予定予算を超えないよう、十分な時間をかけ、外部の専門家による仕様書のチェック等を細やかに行うことで、建設コストや維持管理費を最適化した設計を行わなければならないと提言している。

さらに、その後の特別委員会等の機会をとらえて、基本・実施設計においては、本県の財政状況も十分に踏まえ、建設コストや後年の維持管理・改修費が大きな負担となるよう、また、県民をはじめ、利用者にとって利用しやすく、機能性や収益性にも優れた魅力ある施設となるよう、詳細かつ慎重に検討されなければならないと、再三にわたり、指摘をしてきたところである。

このような中、新県立体育館の整備における基本設計の進捗に応じて、設計内容が発注者の方針や意向から逸脱していないかを品質面やコスト面などから確認し、対応策等の助言を行うコンストラクション・マネジメントが委託業者によって行われ、本日開催された県立体育館整備等に関する特別委員会で報告されたところである。

その内容によると、地盤調査による杭仕様の変更に伴う経費が必要になることが判明するとともに、かねてから指摘してきた地盤高や屋根材、アリーナ外周部の工法等について、安全性や機能性の確保、経費抑制等の観点から再検討された結果、施設と地面との高低差が大きくなり、安全防止対策として手すりを設置するなど、プロポーザルで提案されたコンセプトが大きく変更されており、周辺環境と体育館が一つとなり、公園のような新しい公共空間をつくりあげているとは言いがたい。